

フランネルフラワー「フェアリーホワイト」を育成

フランネルフラワーはオーストラリア原産のセリ科の植物で、日本へは自生種が切花として輸入されているものの、鉢花種は原産国でも育成されていません。そこで、オーストラリアから導入した矮性の系統を基に、交配と選抜を繰り返すことで、鉢花として利用可能な系統を育成しました。

新品種の名称

「フェアリーホワイト」 (Fairy White)

「花フェスタ2005ぎふ」の花フェスタセレクション「新品種展示会」農業技術研究所(当時)ブースで育成品種の展示と名前の募集を行いました。488通の応募の中から、品種の特徴を表す相応しいものを選定し、農業技術研究所内で審査を行った結果、「フェアリーホワイト」が採用されました。清楚で優しい花のイメージから、フェアリーホワイト(白い妖精)はぴったりの名前です。

育成の経過

平成12年	オーストラリアから導入した系統から自家受粉により種子を得た
平成13～15年	交配と繰返し多数の種子を得、鉢花として形質の優れた個体を選抜
平成16年	特性調査と栽培試験
平成18年	品種登録出願
平成21年	品種登録

新品種の特徴

- ①日本で初めて育成された品目で、新規性があり、新しい鉢物として期待されています。
- ②10枚の白色の花弁(ガク)からなり、その先端は緑色でさわやかなイメージを引き立てます。
- ③四季咲き性を持ちますが、春と秋が開花に適します。
- ④多年生で、2年目からは垂れ下がる状態となり、風情が増します。
- ⑤低温および高温に耐性があり、病害虫にも極めて強いため、作りやすい品目です。
- ⑥酸性の土壌を好みます
- ⑦日当たりのよい場所で育てる必要があります。



フロリアード2012で2席を受賞！

「フェアリーホワイト」が、オランダで開催された花の園芸博「フロリアード2012」のコンテストにおいて、**2位**を獲得しました。

フロリアードは、10年に1度開催される国際園芸博覧会で、別名花のオリンピックとも呼ばれる祭典です。今回は、夏の部「中庭・屋外の鉢物」のテーマで受賞しました。



岐阜県農業技術センター